地震津浪未代噺話

全

ヲ1
2954
1

地震并津浪之說

地震之圖

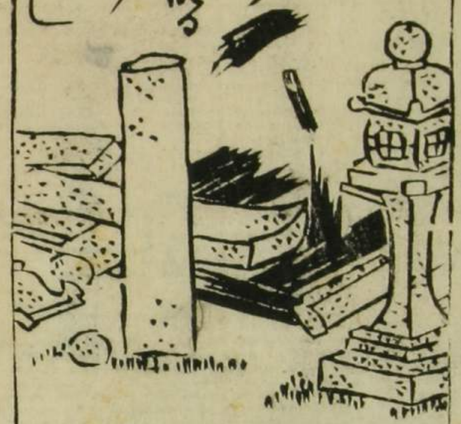
2054

夫地震とは大地の動くなり別して地震あるときは海潮法のごとくして法を迫り昇ること絶えず湯を波濤歲月を經て法に地裂て湯を天に發せんとして震動するなり又波濤とは別して地中より水と發するの濁ったる天地の万湯法をつくまきて勢を發するの大地震と名づけ地震に依て起り或い大風雨を伴く起る也一ときざるを以て

大地震末代噺種

一 ちかゝ水七甲寅年十月旦
夜ゆゝ時ごろより大地震
そゞろゆり屋敷かゝづ
ゆり又日至七ツゝ又く
大ゆり夜ゆゝ時ゆり又
大ゆり又ゆり揺ゆの
大震いまゝしくゝ
大屋人家崩れ破損
景のごく上大屋く
たゝみを変あるひい
小屋を掛け夜を
明しゆゝ
未家の事どもく

大地震末代噺種



△本町六番ぐみ番屋八
うしもや おくづま

△小久ゝ所井戸小く八ツ
西側家二軒潰る

△本町孤山路西側ちの
ゝ塚潰る

△同所南の辻角ゝ小く
七八軒大そんど

△南本所ゝん拾番屋八
小ぐゝ人家ゝ軒大そんど

△南所ゝ小西ゝの塚おく
そんど南の門大ゆゞみ
井戸中ゝ潰る

△拾弓町ゝろりの名所大
ゆゞゝ石燈籠倒まろ

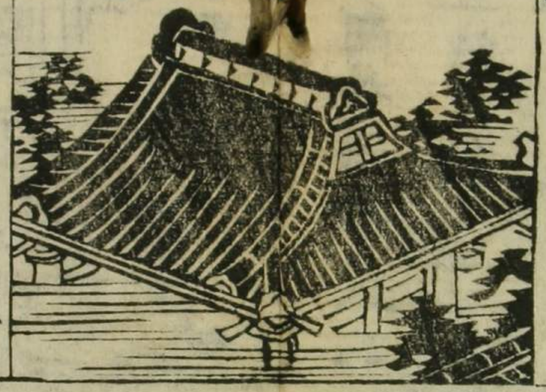
△所霊社内井戸所ゝ潰る

△拾町ゝの中拾番角ゝり
小ゝ中丁ぞろ家文殿の
ゝ塚西ゝくづま所ち
死人ゝ人ゝ

大地震末代噺種

○[illegible]所せんぐんの木葉
[illegible]塀十[illegible]
○[illegible]所井池本南角人家
二軒大損ド

天満
正勝寺
[illegible]
[illegible]
[illegible]

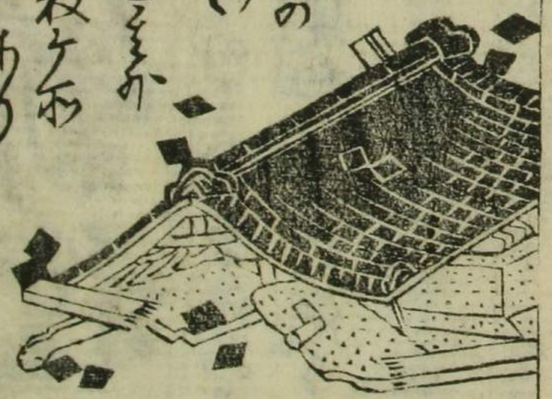


右のごとくゆがみ倒れ破
損ホ[illegible]

○堺川の夷橋内おくの
いくつ[illegible]西南北
おくづくの損ドなり
○天満妙見[illegible]

○法[illegible]所西の[illegible]
○[illegible]や格子法の
裏七屋七八軒大崩れ
○天満[illegible]井戸屋[illegible]
[illegible]大崩れ[illegible]
寺所[illegible]門塀崩れ損ド
[illegible]
いくつ[illegible]倒れかけ[illegible]
[illegible]

天満
西寺所
金毘羅の
絵馬堂
大くづれ
損ド数ケ所
あり



大地震表代新種

○海道上の天狗表門崩る

○海道中の天狗本社残り境門の建物のみ倒る

○門内の天狗後ろ堂崩れ

なかおくの板ゞ有り

○門先知院の玉宝大会所

○門人家大体一町に付七八軒づゝ崩れ

○門内百羅漢堂大損し

○大二村人家凡三十ケん

ばかり崩る

○沒津橋南詰凡七ケ十

丈ばかりの長堤崩れ

ばかり残る

○寺崎橋ばゝ南詰西、

入口人家丈け残る

○天満宮ゝ寺町の内

ばかり西光寺境門金毘

羅の社残る堂ばかり

○沒津橋ばゝ少詰東へ

丈の風呂屋大崩れ

○右同じの人家八軒斗り

大くづれ

○梅田橋東へ丈の高塚

大地震末代噺種

○北の新地みぞりそ一ぢ
西角ぢうやしう西へ
ハ又形大そんど

○梅田橋小伝馬入裏町
の家二そん崩る

○ろ安ぢ一南伝西角の
一軒崩る

○肥後天神大橋ド日和
寺二軒くづまそのわう
人家十軒ぐらい崩る

○新茶ち裏よの毛屋二
十軒ぐらい崩る

○竹肥屋長崎ぢ一南伝
末丁あく入西の人家ゑ
ち軒くづまる

倒る

○ろ家宰中きたの家
一軒崩る

○弥ぐく懸納屋十三ぐん
ぐり崩る

○上町所ぢそひすど
をを共ゝづくの橋ド
あまそたり

○川西新茶寺対面所大
ぐまおすど小く入縄
塚大ゆづま

わの新地
ぐ一ぢ
人家
九ハ十
そん
ぐぐり
倒まる

地震志代嘉種

○京町ぢり紀伊屋ど東法
西へ入裏もち屋二三げん
大家也

○新町同屋横角人家
七八軒大損じ

新町井戸の辻

東の寺
大ゆぐら

○京屋ぢり西井戸町
角人家例まうけ住居
なりぐ

○和泉屋ぢり三一目の
ちり場十軒家

○江戸堀大和ぢり人家
四五軒家

○堀江橋西三丁目人家
半壊ぢり大損じこの
ちり人家土蔵そんじ
あくみつし

○同いちり四軒新堀内
北西新角力場大損じ
屋敷ぐつく

○白髪町ぐりん坊横町
ちり人家

○ぢり場石垣町角家

○堀江あぐ池裏門西
の辻南東角ちり場家
ぢり家

太平記 宝永四年地震津浪聞書

宝永四年 未ノ年 百四十八年成 十月四日未ノ刻大坂大地震

舟ヲ門川ニ通ス 所々ニ波ヲ破船ヲ流シ死ス

摘組 法善寺 六百二拾弐人

南組 押打死人 三百弐拾人

北ノ三百三拾三人

北組 同

南組 水死 三百弐人

小組 同 三百弐拾三人

蔵橋 弐拾弐 折橋 ロウ

船ヲ作リ沒ス 大小百二十七艘 日本ノ船ヲ留リ 徴発ス

死人 都合弐万九千九百八拾三人

内 船頭 打破人 家押流シ 山ヲ崩シ 流ス

大地震 大津浪 忠臣蔵 九段目 数奇

さびしさはとのひおすりひゞけるい　此度のぢしん

仕ようと云ハ見せやさん　大坂のやけ

風雅でもなく志やれでなく　大坂の人まで酒のんでおるく

とんと発ハせうとう　大空の家えんさうしておる人

抜角おりみで ちしてぶ家座　えみさく酒とんで出る義

……して飛で出る　是めしおのゆさく

是よてゝきいとさし出そ　月蔓の家まつけ

飛猫が来てくべ志らせいよ　数方へ出んまかみ

おまえへわりますしなる　大工方よ待

是かくゆるす入　淡路で尾がおちてけがえた人

うえ比が役の二人まへ　大地しんでこわうて男世帯

いうてやくそくるゝまでいとそで　はうそで死ござ人

粗子ハ依くれこし終ぬ　諸方の大つなみ

おやの敵ハ志しども　新まちあまおる人

そりや主實ハまことうと　大つなみの怪我をした人

家までも分てもひつぬ家宝　沢山ハ新宅人

途方にくれしとりかしハ　在所の親ハむかひに来た人

がてんがゆかぬ　コリヤどふじや　つなみで　おかやハ又ゆさく

雑興ハ酒ハ性根を乱し　見てつけ

日本一のおかみの　家も出んさん家でてろそ留人

遠慮なくこざそく　枚本屋

かういうおがいやさま　手まわり分を在所へわけた人

後面ハ出待より

初ハよのろゝひ　ちしんあと春の志らべ

嘉永七甲寅十一月

大地震相撲取組

頭取 世直し震蔵
世話人 白米安右衛門

巳ノ時 震出し
二度目 仰天
堂崩れ 土煙
永来目ニ 阿武松

浪花浮 大恵羅
清水 舞臺飛
大道 夜明し
西ノ方 黒雲

大震り 肝潰
座敷宮 鳥居倒
傳法浮 藏倒
馬場 人ノ山

大破損 変宅
桟木矢 大悦
吹子 大不寄
夜通し 逃支度

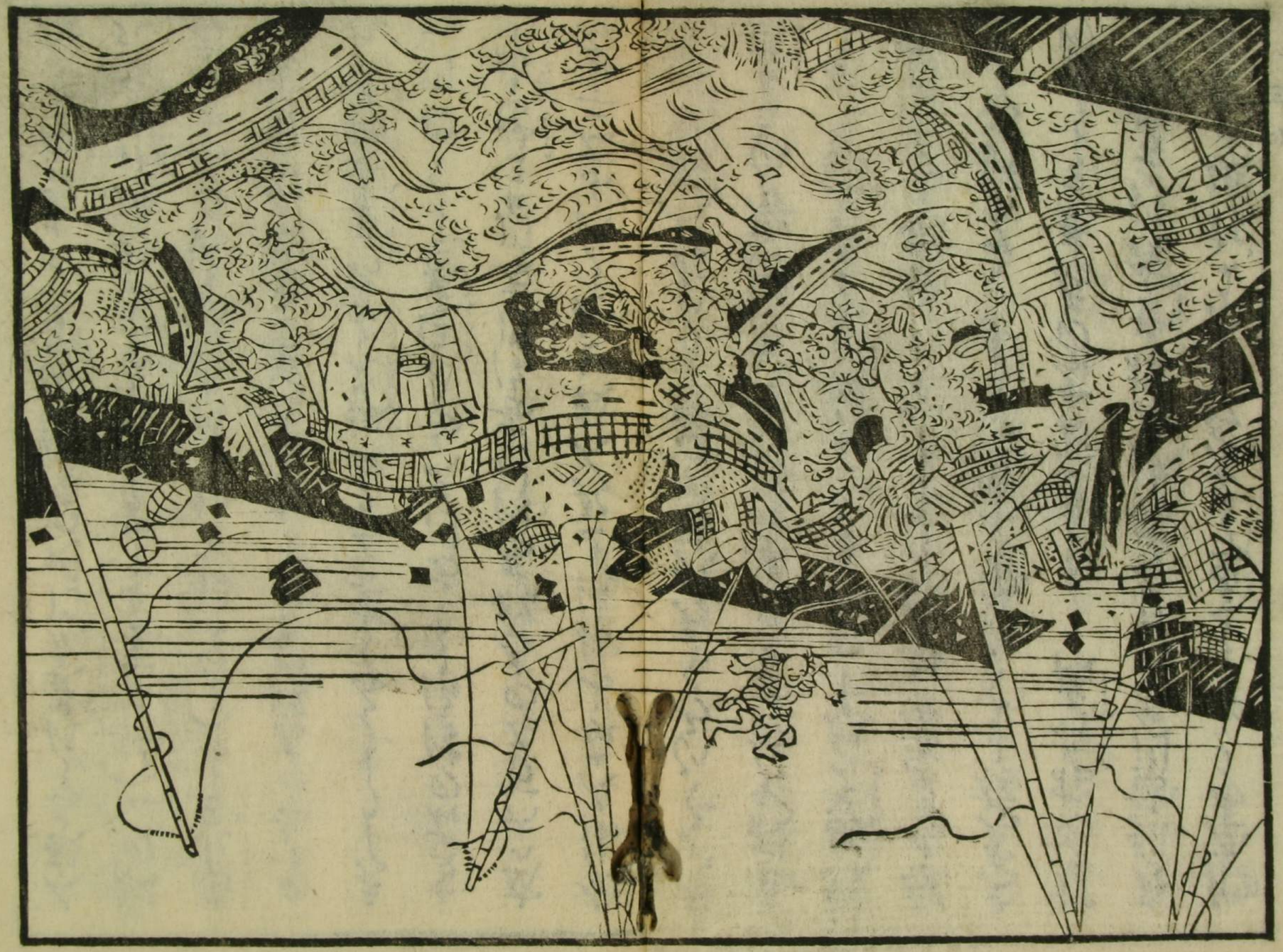
普請方 幸ヒ
南御堂 門斜
高塀 皆倒
神仏 大祈

瀬戸物 大割れ
起番 酒ろし
用心 軒丸太
尼ケ崎 半崩れ

都方 静カ
伊勢海 大荒れ
四日市 夏通り
高上 半休日

大津濱末代噺種

一寛永七甲寅十一月廿日七ツ時ニ大地震後津波
ゆり出し来る時代大津濱ニ多く流る一
丈余りの大波矢ノ如くおく打寄り天保山の
人家悉く流る泉尾新田今宮新田西淀末津
雑波新田勝光寺淀一面の白海と多く田地い
ゆ海人家ハ残流ル死人数を知らず二千石
或ハ百石の大船本津川安治川安川口ニ繋ぎ
置く右の津波にて西川口ニ繋ぎ逆巻でくく門川へ
矢ノ如く突上る船頭共上ニ乗り櫂を押流され
あるいハ大船の下敷ニ成り多く死亡の人々
溺死数多人ハ数を知らず大船ハ百石ハ百
船の上へ流れ上り来る所ハ打砕け見亡
人数ハ数知れず支配門川の浜側掛ノ者の
助海義



紙屋町より西へ出る大和の橋より打廻りて且
乃枝橋川筋の日吉橋汐入橋幸橋住吉橋この
間の橋拾壱
大黒橋より西へ三方へ出る所此所
和泉屋敷千石屋敷二百の藩邸
渡船場より下の小舟九三百艘
舟数を知らず又安治川を回船の繋いる所
川筋ひろく乃枝橋川
ちくれく橋の安治川橋長井橋二ヶ所藩邸
に川筋落橋水門橋黒金橋川ヶ橋藩
乃枝橋西横堀今長橋帆柱橋実ヶ
あり長い地長ヶ平ヶ上橋第五番の中舟
ちくれ橋ひくくに地蔵を浮んと四川ヶ
舟繋作ヶ長い濱側の地へ出ヶ居
異女先若衣の津藩ちくれ一人よのちくれ水
船いくらいくらべ〳〵

大津波未代噺種

志摩国の湊大津波にて
四方町家とも悉
くづれ又ふねと門口に
かゝりみな〳〵大敗かな
港へ打上あるひは海中へ
[illegible]
おろかなる目も
面らるまぬほどなり
○港町後良い悪家数三百余軒の所大つなぎ
ふねのゝこらず流れ出ほうこうおくれん
○勝浦山田松坂津白子江戸日市桑名をへて
浦々の人家い大体名ばかりなるし
○勝浦辺ケ崎つなぎ門川水主丈夫なり場を船
人家の換し鞍しく死人百余人あり

大津波末代記種

十一月廿日夕大津波
寒来るおゝ大坂の西
おゝ高潮とゆふべ丈け
二丈ばかりの高場を
出そうと人々見と見て
行と法しアレヨくと
大津波
向ひよりてあと
うけるやくして海
見てゐたと
ばかるく
大津波
寒来る
見け変と告うしんと
浪ゝ見ひ合ーくる

嘉永七甲寅十一月

大津浪相撲取組

頭取　湊　荒右ヱ門

世話　響灘浪之助

沖鳴　大津浪　早浪　大浪
雷の音　通巻　落橋　破船

大黒橋　新田　小舟皆　荒湊
船詰り　白海　微塵　家無

問屋浮　川枝木　荷主山　勘助鳥
皆損　大流　大流　大潰

任ノ江　割茶舟　跡残り　荷流
静大　人流　橋臺　大損

金屋橋　天保山　船持　西ノ濱
半崩　家流　大弱り　肝潰

出水川　掛造り　水勢　濱納屋
割舟　大破損　甲流　藏崩

鳥羽浦　紀伊海　大群集
怒崩　大荒　人の山

多人力
引船

大地震大津浪 太功記十段目 抜文句

志らん抜首　津なミでえ船　しく荷を

昔ひをくをさらふに逃　まへして　おんバへ出さん人

お本通へ引かへ　まへ見てつる皇　の噂せ人

おかやまなる　[illegible]義母教子和の手紙　まれ書き人

郡もまで出る　まんさん　[illegible]

めくら逃　さし足　へつら掛る敷　走れ走る追ひ人

まつと取かる　女の[illegible]　地しん[illegible]　の家の行く人

嘘ゆるめの皆　[illegible]　大[illegible]　内に居る人

采の身の　志ぬ世　[illegible]　つまらん人

水行ぶ起に　脈ぜい[illegible]　大地しん　[illegible]

未世の泥濘に　のそしてうぐ　大地震で人　つまつさ船

擬の濘　くありゐき　[illegible]の濘

絶えず婦付　してとまま　大[illegible]しく　[illegible]

詞はゆるぬ　大さん石　大坂の　御城

志りし目お　ころまを見よ　[illegible]ちんの　[illegible]古家

臣て都へ　たの世の[illegible]　流[illegible]の　見た[illegible]状

高名まだ代　見るせうる　[illegible]清方

未文様具が　[illegible]をつくし　大[illegible]人理の　[illegible]る人

とう[illegible]門　[illegible]ぐ延る　かんなん出しく　[illegible]の芝居

まぐ[illegible]の　さらつ[illegible]代　地しんて　延くこん礼

行きり[illegible]　ゆき出ぬ　下中[illegible]　小[illegible]の[illegible]人

行[illegible]志くに　[illegible]　津なミにて　[illegible]橋く

さる[illegible]な[illegible]　[illegible]地の[illegible]　[illegible]行人

めでたく　[illegible]に　けがのないの

大地震大津波

時いたれば水宮の命をみちびきたまひ、そこどう
ありてるかつまの死亡さらぐこんぶようたまを拾ひ
ろうと皆目とさ迷ひてくるる涙よりひぐみさかりざ
るるふのゆきくい安産でどもはあるこおりまぬ皆も
大ゆ世まもモウ出るかもしれ世一ゆきくとうーや
作の者共ぐ人寿月冒辰の予刻よゆり迷もいるほど
うかまをいかりまあふわいうんでとまりませのふ
まーふ海ぶーふそふふいる人つるきくとうとうんぶる
つるこ打ちる涙の大ゆりうーうんこうん門の大ゆりかつて幾で
こ海ぶいこうふはまぐりくくこうふをゆつる変こ乳ゆめそこ
打移せこ和屋をみんぐらんちくこうぐこ無やかんちりん底ひ
ぐ皆底まびん名こ結揉ぐり当てたぶるーぐ人こづけ
ち名遊て流る藤ぐちこ面りこうる所野も集皆ーうまこ
こまこれ法方の仏義もどつ様ーうきくたもくく世上こ乳ゆ
門こ人集るどつちまこうちまんのこうんこ浪の世迷

大地震大津波絵図志

清水寺とうけく　ぶたいの破れとく　じや

ぶたいの者のさけ　沖ろう　じや

つるゝの大ふね　けれて　なんこのけん　じや

石垣堀川の大ふね　大きぐ　留てゐる　和尚

ひろちのみあげけ　ゆとつても　まぐ会

よいしのむとこ　てけそふて　こけぬ　枝地　じや

夫ゑちのゝ　しやうぐのせこ家

きのようゝひ女中　あゝおゐの業書

瀬戸おゐ町　ゝこのゝつけ　刻てじや

大地しんの絵れ　きのおのロあけ　出てじや

行ゞうーのとゝろゝ　ちゝゝるぐへて

大つゝゝみ　業屋のつゝ出　さへてじや

今ゝ家の大つゝゝ　きゆんゝんゝぐ　出てじや

地ゝ出ゝゝの村ゝへ　ゝゝへ傷ゝん

つゝゝゝ地しん　ゝゝりゆうゝ嫁ゝん

きぐのゝんぐん　西月のゝゝ綱

町くの板絵や　ゝゝせるのゝゝゝ

今家のつゝみ　中ゝゝ中ゝ

地しんゝゝぐの中夜　きむゝゝのゝゝ

くゝ清ゝゝけゝ搭　ゝゝゝぐじや

ゝ和浦のつゝゝ　ゝゝのゝゝゝのは

ゝゝりかけゝゝれ　清ゝゝけゝ業

大ゝの家あゝ　去ゝえのゝゝ

ゝゝゝ掛ゝいえ　ゝ場ゝれをゝのゝ事

石垣堀川の川ゝ　業お場

村ゝへて　ゝゝゝゝ

ニ家ぐつ　ゝゝぐじや

出ゝ作で　ゝぐゝゝ

づを出て　じや

紀ゝゝ　ゝゝゝい

こゝゝゝ　ゝゝぐじや

人ゝゝて　じや

皆清ゝて　ゝゝゝ

寒ゝゝて　家てじや

星ゝ　ゝゝる

丸ゝぐ　おてゐる

ゝいく　ゝゝける

淀乃川瀬うた

四方乃ひろてのうアまゝ

かゝ如きことけてこゐるやね

さんざらまぐひどれはか

みがおりやのちんぎゝひぐくあれ

ぐゝふみんえこゝおおきゝ出ゝと

門にかゝてゝ住ゝゝ会風吹ので

おまつゝんゝ思ゝこゝ祈ぐ

ぐんさ海モヲイ〳〵ヲヒ〳〵イヨル